

報告事項才

「子どもの育ちを支える研修会」の概要について

「子どもの育ちを支える研修会」の概要について別紙のとおり報告します。

平成31年1月16日

鳥取県教育委員会教育長 山本仁志

## 「子どもの育ちを支える研修会」の概要について

平成31年1月16日

いじめ・不登校総合対策センター

鳥取県教育支援センター「ハートフルスペース」主催の「子どもの育ちを支える研修会」について、以下のとおり報告します。

- 1 日時 平成30年12月8日（土）午前10時から正午まで
- 2 場所 倉吉未来中心 セミナールーム3
- 3 参加者 84名（保護者45名 学校・支援機関関係者39名）

※学校・支援機関関係者

市町村及び県教育委員会職員、小・中・高・特別支援学校職員、  
市町教育支援センター職員、フリースクール職員、スクールカウンセラー、  
スクールソーシャルワーカー、市町村行政職員

#### 4 研修会開催の経緯

- ・従前よりハートフルスペース主催の保護者研修会を開催し、ハートフルスペース利用者の保護者を対象に、保護者研修会を開催してきた。
- ・ハートフルスペースは「次への一步を踏み出す支援」を行っているが、自己肯定感を高める関わりが大切だと感じている。
- ・自己肯定感を高める関わりは、ハートフルスペースの利用者だけでなく、どの子どもにとっても「自ら問題を解決していく力を高め、自分らしく自分の人生を歩んでいく」ために必要なことである。保護者、支援者がともに、自己肯定感を高める関わりを行うことができるよう、研修会の参加対象者を広げ研修会を開催することにした。

#### 5 概要

##### （1）ハートフルスペースの紹介

- ・義務教育段階における不登校状態にある児童生徒への支援を行う場として市町設置の教育支援センター及びフリースクールがあること、義務教育修了後には県教育支援センター「ハートフルスペース」で支援を行っていることについて説明し、学齢期から青年期まで切れ目のない支援を行っていることについて紹介した。
- ・ハートフルスペースの活動内容や取組等について説明し、社会参加・自立に向けた次への一步を踏み出す支援を行うハートフルスペースの役割を紹介した。

##### （2）講演

「自己肯定感を高める関わり」

講師：キッズカウンセリング代表 森田直樹氏

- ・親が子どもへ肯定的な言葉かけ（コンプリメント）をすることで、子どもが自信を持ち、自分自身で問題を解決していく力を高めることができる。
- ・子どもの問題行動や心身の不調を引き起こす原因に、子ども自身が「問題に対処する力や自信を失っていること」がある。
- ・子どもの心のコップを自信の水で満たすことが必要で、自信の水で心が満たされる状況になれば、子どもは自ら問題を解決していく。
- ・自信の水の源は親からの「愛情（お母さんは<お父さん>は、うれしいな。）」と「承認（～の力がある。）」で、愛情と承認の言葉をかけ続けることで子ども自身の主体的に動き出す姿が見られるようになる。
- ・コンプリメントには3つの段階（<子どもの心を開く段階><子どもを支える柱を立てる段階><親子の会話を増やす段階>）を意識した声のかけ方があり、事実を見つけ、伝え、気付かせることで、「自分には～の力がある。」と、子ども自身が自分の能力に気付き、自己肯定感を高めることにつながる。
- ・支援者も愛情と承認の関わりを意識して関わることで、より効果的に自己肯定感を高める支援を行うことができる。



## 6 参加者の感想

- ・具体的に希望の光が見えるお話が聞けてよかったです。自信の水不足にならないように、子どもの姿と一緒に考え、よさに気付かせてあげるような声かけをしていきます。
- ・非常に具体的に、現実的な親としての行動を教わることができました。本当に聞きに来てよかったです。不登校でなくても思春期の娘と息子の対応に苦慮していたところ、親として何をすべきか光がさしました。
- ・子育てについて学ぶことができました。子どもを見る目を養い、子どものよさを見つけていきたいと思います。
- ・毎日の親子の対話を増やし、子どもの未来の大きな力となるようにと思います。
- ・学校という立場でどう子どもを支えるかという視点で考えることが多かったですが、やはり、保護者支援という視点も重要だということを再確認できました。

## 7 研修会の成果と今後の予定

保護者、支援者ともに、子どもとどのように関わっていけばよいのかを悩むことが多く、望ましい行動に子どもを導きたいが、反抗的な態度や言葉、投げやりな様子に、支援・指導する難しさを感じる状況がある。

保護者、支援者が、明日からの子どもとの関わりに前向きな気持ちになれるよう、今後も研修会を開催していきたい。また、研修内容や子どもとの関りにおけるポイントなどをホームページ上に掲載するなど、情報提供の工夫を図りたい。